

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 清原 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	218 人	国語B	217 人
② 数学A	217 人	数学B	217 人
③ 理科	217 人		

5 留意事項

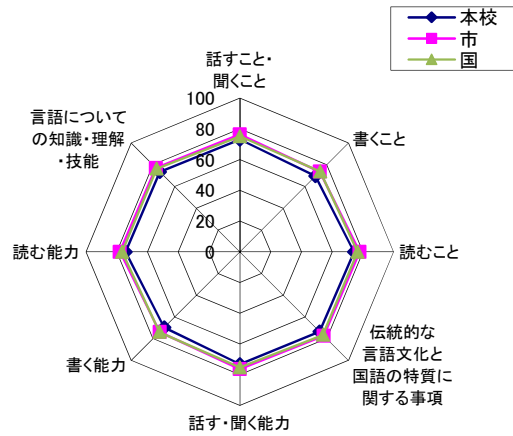
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

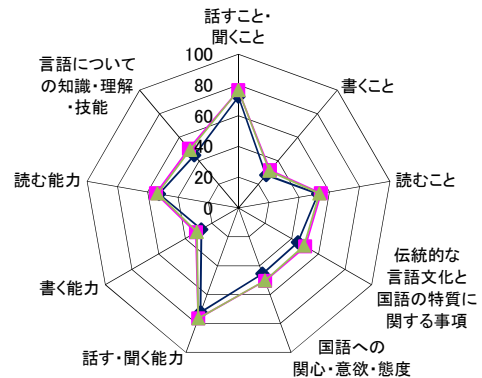
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.1	76.4	75.2
	書くこと	69.6	73.7	73.9
	読むこと	74.3	78.0	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.5	77.2	76.5
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	73.1	76.4	75.2
	書く能力	69.6	73.7	73.9
	読む能力	74.3	78.0	76.7
	言語についての知識・理解・技能	73.5	77.2	76.5



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.4	76.5	76.6
	書くこと	27.9	31.9	31.3
	読むこと	52.5	54.5	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	44.7	50.2	49.2
観点	国語への関心・意欲・態度	45.6	50.6	50.3
	話す・聞く能力	72.4	76.5	76.6
	書く能力	27.9	31.9	31.3
	読む能力	52.5	54.5	53.5
	言語についての知識・理解・技能	44.7	50.2	49.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

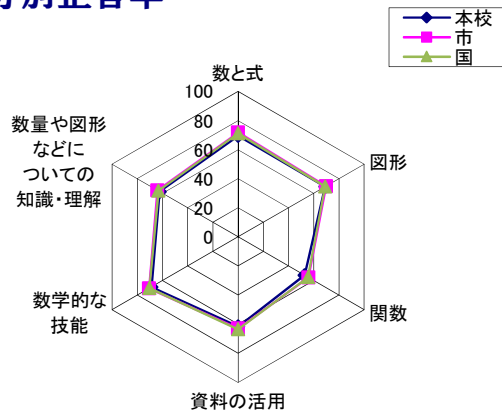
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>●平均正答率は国語Aの73.1%で3.3ポイント、国語B 72.4%で4.1ポイント市平均正答率より下回っている。 ○ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する設問の正答率では、54.4%で市平均をわずかに上回っており、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことにおいては、比較的良好である。</p>	<p>人の話をしっかり聞き取り、考え、質問し、自分の考えを話すといった活動を繰り返すことで、話す力と聞く力の向上を図りたい。 自分の考えを深めるうえで、他の人の考えや話は重要であることを学習させたい。そのために話し合い活動を適宜授業に組み込むことを指導する。</p>
書くこと	<p>●平均正答率は国語Aの69.6%で4.1ポイント、国語B 27.9%で4.0ポイント市平均正答率より下回っている。 ●意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する設問の正答率は56.9%で市平均を4.0ポイント下回っており、特に、書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討することが課題である。 ●書くことの設問が無回答率市平均の2倍ほどであるものが見られる。</p>	<p>相手に的確に伝わるように文章を書かせたり、書いた文章を見直させることで、目的に合った適切な文章になっているかを再検討させる機会を設ける。 50字～100字程度の文章を書く機会を増やし、書くことに慣れさせ、抵抗をなくすように指導する。</p>
読むこと	<p>○グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する設問では市平均を1.0ポイント上回っており、文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えることに、良好な状況が見られる。 ●本文の第六段落の説明として適切なものを選択する設問では市平均を5.9ポイント下回っており、段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てることに課題が見られる。</p>	<p>文章中の文と文や段落と段落の関係を捉えて、文章全体を理解させるためにも、文脈における語句の意味を一語一語大切にさせ、接続語や指示語をとらえさせながら読解するように指導する。 読書活動の時間をさらに重視させ、朝の読書や図書館の利用を促すことで、文章を読む機会を増やすように指導する。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>●平均正答率は国語Aの73.5%で3.7ポイント、国語B 44.7%で5.5ポイント市平均正答率より下回っている。 ○適切な語句を選択する設問では市平均を4.2%と6.1%上回るものもあり、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことは良好な状況も見られる。</p>	<p>家庭学習の時間を十分に取れるようにさせ、漢字を練習したり、語句の意味を辞書を引いて意味を調べたりする時間を確保させることで、語彙を増やせるように指導する。 授業において、辞書を頻りに引かせることで、語句や熟語、ことわざや慣用語などの辞書的な意味を先ず知らせ、その上で短文づくりなどにより生活の場面でも使えるような力を身につけさせるように指導する。</p>

宇都宮市立清原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

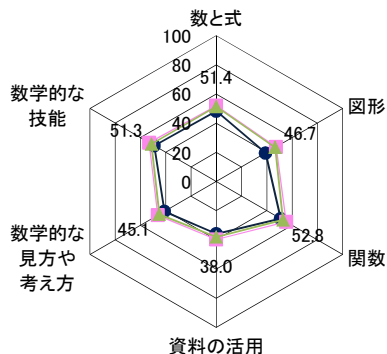
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	69.5	71.7	71.1
	図形	69.2	69.7	69.1
	関数	52.8	55.8	55.5
	資料の活用	61.6	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	68.8	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	62.3	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	48.3	52.0	51.4
	図形	39.0	47.3	46.7
	関数	51.0	55.4	52.8
	資料の活用	35.9	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	41.1	46.3	45.1
	数学的な技能	49.1	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

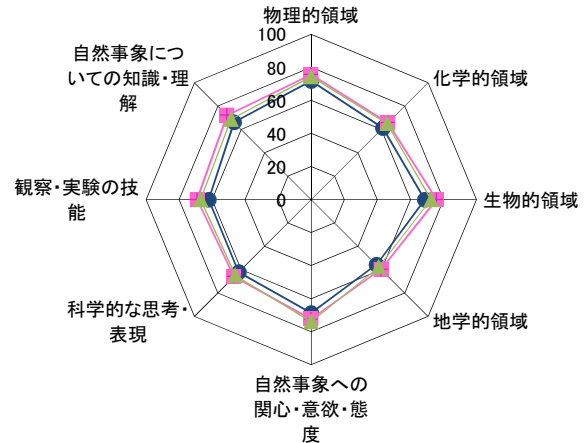
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○絶対値や数量の大小を不等号を使ってあらわすなどの基本的なところは県や全国を大きく上回った。 ●等式の性質を用いて、目的に応じて変形することや方程式を解く場面における等式の性質の使い方についての理解が、県や全国の平均を大きく下回った。特に等式の変形は無回答率が27.6%であった。	1学年で学習した、等式の性質の用い方の理解が不十分のため、等式の変形に影響が出ていると考えられる。今後授業で方程式を解いたり、等式の変形を行う際には、等式の性質を丁寧に板書し復習を図っていく。
図形	○角の二等分線の理解や回転移動、四角錐の理解は県全国ともに大きく上回っていた。 ●付加された条件の下で新しい性質を見いだしたことを説明する問題の無解答率が37.8%で県や国の無解答率を10%以上上回ってしまった。	基本的な内容は理解しているが、新たな考えを見いだしたり、説明したりする問題になると諦めてしまう生徒が多いので、問題を精選し、1人で考える時間や友人同士で相談し合う時間をしっかりと、諦めずに取り組む姿勢を育てていく。
関数	○比例定数の意味や1次関数のyの増加量を求める問題、グラフを利用した問題は県の平均を上回った。 ●比例のグラフからXの変域に対応するyの変域を求める問題が県や国の平均を大きく下回った。	関数領域は、苦手意識を持っている生徒が多く、問題が理解できていない状況といえる。関数の理解を深めるために、一つの場面から様々な数量を取り出す活動などを行い、性質を発見していくような指導を引き続き行っていく。また、他領域にまたがる問題も多くあるため、復習を兼ねた問題演習を取り入れていく。
資料の活用	○最頻値の問題は県、全国をともに上回った。 ●中央値、確率の問題は全国を下回った。	資料の活用では、代表値(平均値・中央値・最頻値)の意味を理解できていない生徒が多く見受けられる。その必要性と意味を理解させ、代表値が求められるよう引き続き指導していく。 確率では、樹形図や表などを用いて、起こり得る場合の数を正確に求められるよう引き続き指導していく。

宇都宮市立清原中学校第3学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	71.8	75.7	74.4
	化学的領域	61.3	65.8	65.0
	生物的領域	68.7	75.9	72.5
	地学的領域	55.8	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	68.7	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	62.1	66.0	64.9
	観察・実験の技能	62.0	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	66.1	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○光の反射についての規則性や光の道筋を説明する問題の正答率が高かった。また、オームの法則を使って抵抗の値を求める問題の正答率が高かった。 ●実験の結果を示した表から電流の値を求めることに課題が見られる。	・光の道筋の作図や計算練習を繰り返し行うことで定着が図られているので、引き続き丁寧に指導したい。 ・実験操作については操作しているときは正しく使えるが、時間がたつと操作の仕方を忘れてしまう生徒も多いので、復習する機会を設けたい。 ・実験結果を表にまとめたり、グラフに表すだけでなく、作成した表やグラフを活用させる機会を設け理解を深めさせたい。
化学的領域	○食塩水の濃度の低いものを指摘する問題で、回答率が高かった。 ●実験の計画において「変えない条件」を指摘する問題や、実験の過程で新たな疑問を見だし、探求を深めようとする問題での正答率が低かった。	・計算練習を繰り返し行うことで定着が図られているので、引き続き丁寧に指導したい。 ・決められた実験を行うだけでなく、条件を変えたり、新たな疑問を解決していくような探求的な実験を計画し、実践できる機会を設けたい。
生物的領域	●無脊椎動物や軟体動物の体のつくりの特徴や神経系の働きについての問題での正答率が低かった。 ●実験において、1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘する問題での正答率が低かった。	・2学年で学習した内容についての問題で正答率が低いので、定期的に復習する機会を設けたい。 ・決められた実験を行うだけでなく、条件を変えたり、新たな疑問を解決していくような探求的な実験を計画し、実践できる機会を設けたい。
地学的領域	○風向の観測方法や記録紙の仕方についての知識に関する問題で、正答率が高かった。 ●地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識を活用する問題において、正答率が低かった。	・記号の読み取りについて繰り返し演習を行っていることで、定着が図られているので、引き続き指導したい。 ・単元ごとに習得した知識を他の単元で活用することが苦手なので、単元が変わっても既習の他単元で学んだ知識が活用されている場面での内容を上げていきたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「家で学校の授業の予習・復習をしている」生徒の割合が県と全国の平均を上回った。昨年度から学校全体で取り組んでいる家庭での自主学習の成果の表れだと推察できる。今後も生徒が自然と家庭学習に臨めるような課題の提供や家庭との連携を図ってきたい。

○「数学の授業が好き」「数学の勉強は大切」「数学の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つ」「理科の勉強は好き」「理科の勉強は大切」「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたい」と回答した生徒の割合が県と全国の平均を上回った。理数系の学習内容について将来においても大切だという意識は高い。この意欲をさらに生かした授業を展開することが望まれる。

○「調査問題の解答時間は十分か」という質問には国、数、理全て「ちょうどよかった」と回答した生徒の割合が全国の平均を上回った。時間配分も考慮しながら、解答できる問題については取組んだ様子がうかがえる。が、式や文章で説明や解答を求められる問題については無回答であったり不十分な解答のため得点に結びついていない実態が見受けられる。今後は文章での解答を簡単に諦めない学習態度の育成と正確に解答できる技能指導が必要である。

○「朝食を毎日食べていますか」という問いに対し、毎日食べていると回答した生徒が県平均より3.3ポイント、全国平均より6.0ポイント上回った。9割以上の生徒がほぼ毎日朝食を摂取しており、朝食の重要性を生徒だけでなく保護者も理解していることがうかがえる。

○「人の役に立ちたい」と考えている生徒が県や全国平均を上回った。学校生活においても学級や委員会、行事等の仕事に積極的に取り組む生徒が多い。学校という集団での前向きな姿勢を認めつつ、ボランティア活動など社会全体へ向けた活動にも主体的に取り組めるようにしていきたい。

○●「先生によいところを認めてもらえている」と感じている生徒が全国平均より3.5ポイント上回った。周囲に自分が認められてられていると感じている生徒は多いようである。しかし、「自分にはよいところがある」と考えられる生徒は80%弱に留まり、他者からの評価に比べ、自己肯定感はやや低い傾向が見られた。ひとりひとりがかけがえのない存在であるということへの認識を高め、自分自身を認められるようにしていくことが今後の課題である。

●「学校の授業時間以外に普段1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」として、1時間以上2時間未満と回答した生徒の割合が最も多く、2時間以上または3時間以上と回答した生徒の割合が県と全国の平均を2ポイント程度下回った。上記で家庭学習の定着が良好な様子が見受けられたが内容や学習時間については改善すべきであると思われる。

●「数学の問題の解き方がわからないときは諦めずにいろいろな方法を考えるか」「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えるか」「理科の授業で自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表しているか」「理科の授業で観察や実験の結果をもとに考察しているか」クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」と答えた生徒の割合が県の平均を6.5%下回った。話し合い活動を生かせる場面、方法、期待できる効果などを全教職員で共通理解し、授業の中に話し合い活動を取り入れていきたい。

●「1.2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」としての生徒の回答割合が、県や市の平均から大きく下回った。一問一答式の問題の解答には慣れてはいるものの、それまで習得した知識や技能を活用して自分の言葉で表現するというスキルは身に付いていないことが浮き彫りになった。「なぜそうなのか」「どうしてそう思うのか」というような質問を教師側で意図して設定して、生徒自身の言葉で語らせることが今後必要である。

●「将来の夢や希望を持っている」と回答した生徒が県平均を6.3ポイント下回った。まだ将来への具体的な目標が定まっておらず、中学校卒業後の進路についても、おぼろげなイメージしか持たない生徒が全体の30%弱である。職業観や勤労観をきちんと養い、自分の将来への展望を持てるように指導していくことが必要である。

●「学校の規則を守っている」という質問に対し、きちんと守れていると回答した生徒が県や全国平均を下回った。しかし、全く守っていないと回答した生徒はならず、どこかに甘えが生じてしまい完全に守ることができていないと感じている生徒がいるため、このような結果になったと考えられる。集団生活を皆が気持ちよく送るために規則があるということを理解させ、誰もが嫌な思いをしない学校生活を送れるように声を掛けていきたい。

宇都宮市立清原中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
話し合い活動の充実	○話し合い活動を生かせる場面、方法、期待できる効果などを全教職員で共通理解し、教科ごとに授業での活用場面を話し合う。 ○校内研修などで、効果のあった話し合い活動について、全教職員に周知する。	・「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」という質問で全国・県の平均を下回る結果となった。今後、全職員で話し合い活動を取り入れた授業を実践し、話しやすい雰囲気を作っていく。
「書く」活動の工夫・充実	○定期テスト等で、書かせる問題を増やし、普段の授業でも書かせる機会を多く取り入れる。 ○授業の中で分かったことなどや振り返りを、言葉で書かせ、他の人に向けて説明させる。	・「1.2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか。」という質問で全国の平均を上回る結果となった。授業の中で分かったことなどや振り返りを、言葉で書かせ、他の人に向けて説明させた結果と思われる。
家庭学習の充実	○自主学習ノートを全学年共通で行い、毎朝提出状況をチェックする。未提出の生徒には担任から声かけをし、継続して学習していけるよう励ます。 ○自主学習ノートのやり方として見本となるようなものを全校生徒に示す。	・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「家で学校の授業の予習・復習をしている」生徒の割合が県と全国の平均を上回った。昨年度から学校全体で取り組んでいる家庭での自主学習の成果の表れだと推察できる。